企画・制作／釧路新聞社 広告部

謹賀新年

本年もよろしくお願いします。

まりもでくしろ新聞 vol.4

新年を迎えて

マリモでくしろを盛り上げ隊
会長 浅野一弘

新年明けましておめでとうございます。旧年中は当会へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。会の結成から8年という月日を皆様とともに迎えられますことは何事にも代えがたい喜びであります。

さて、昨年を振り返りますと、恒例となった釧新花火大会への協賛プログラムも、観客の皆様から「期待」されるまでの定着ぶりとなりました。「釧路すえひろヒアガーデン」にお邪魔しての「マリモナイト」は2年目にして会場いっぱいのお客様にご参加をいただき大盛況。木島誠悟氏による絵本「わたしはマリモ」は日本語版のみならず、英語版、台湾語版といった多言語化にも対応し、国内外の方に親しんでいただけるまでになりました。これらの結果は関わってくださった企業様、行政関係者様、参加してくださる市民の皆様のどれが欠けても成し得なかったことだと感じております。本年も当会は個人・地域レベルでの活動から、大きな場面まで。「マリモ」と「地域」の「元気」のために全力を尽くして参りたいと思っております。どうぞ昨年同様、いや昨年以上のご愛顧、ご理解、ご参加をよろしくお願いいたします。

令和2年 元旦

1/17 まりもテーマに挑戦を 盛り上げ隊が新年交例会

「マリモでくしろを盛り上げ隊」（浅野一弘会長）は2019年1月17日、釧路市内で新年交礼会を開き、参加した会員約50人が新年の飛躍を誓った。

浅野会長はあいさつで「昨年は絵本の発行やマリモナイトの開催など、新しいことにたくさんチャレンジできた年だった。今年も昨年以上にマリモをテーマにしてたくさんのことにチャレンジしたい」と抱負を語った。この後毎年恒例となっているマリモを模したゼリーが入った日本酒で鏡開きを行い、参加者全員で同会が考案した「トーカリップ体操」を踊って汗を流し、会員らは和やかな雰囲気の中で親睦を深めた。

鏡開きを行う関係者ら

3/29 マリモの絵本英語版お披露目 盛り上げ隊総会

3月29日の「マリモの日」に合わせて、マリモでくしろを盛り上げ隊は、総会と第1回例会をANAクラウンプラザホテル釧路で開いた。

この日は会員約100人が参加。浅野会長のあいさつに続き、釧路国際ウエットランドセンター顧問の若菜勇氏が「マリモの名称はなかった」と題して講演、マリモ命名の歴史などを説明した。

懇親会では、釧路市地域雇用創造協議会が地場産のエゾシカ肉を活用し地域活性化をする目的で開発した「946メンチ」を乾燥ホウレン草で色づけし、マリモのイメージにした「946メンチまりも」を提供。恒例のヒートボイスライブも行われた。

また、この日は同会が昨年発表した、マリモの絵本「わたしはマリモ」の英語版も初披露された。会員の松田有律香さんが英語版をスクリーンに映し朗読した。

「わたしはマリモ」英語版を朗読する松田さん

国内外にマリモの不思議な生態PR 「わたしはマリモ」英語版、台湾語版が完成

マリモの不思議な生態や命のつながりをわかりやすく解説する絵本「わたしはマリモ」。作者である木島誠悟氏による親しみやすいタッチで描かれたマリモが「とってもかわいい」と好評で、まだ文字の読めない小さな子供から大人、そして釧路を訪れる観光客らに好評だ。英語版完成にともない、翻訳を手がけた愛知淑徳大学名誉教授の大野光子氏と夫の竜三氏が7月に来釧し、作者の木島氏、「マリモ研究」の第一人者若菜勇氏、大野夫妻との縁を取り持ったマリモでくしろを盛り上げ隊副会長の杉元重治氏とともに完成の報告を行った。

左から杉元副会長、英訳を手がけた大野氏、木島氏、若菜氏

また、同年10月には台湾語版が完成。釧路市立動物園と学術交流のある台湾・台北市立動物園の新タンチョウ舎完成セレモニーに合わせ訪台した蝦名釧路市長らが、できたばかりの絵本を同園へ寄贈。同じく無償貸与された阿寒湖産の天然マリモとともに来園者の関心を集めた。

完成間もない「わたしはまりも」の台湾語版を台北市（台湾）担当者へ手渡す蝦名釧路市長

6/18 マリモの理解と保護に役立てて 盛り上げ隊釧路市に絵本寄贈

マリモでくしろを盛り上げ隊は2019年6月18日、完成したばかりの絵本「わたしはマリモ英語版」100冊（10万円相当）、とマリモ環境保全研究費として現金5万円を釧路市に寄贈した。

同会による市への寄贈は2014年から。同会テーマソングを歌うヒートボイスの「トーカリップ」のCD売り上げ金や会員から募った財源を基に、毎年実施している。

この日は浅野会長や杉元重治副会長、浅野目充事務局長ら役員7人が市役所を訪問、絵本と現金を蝦名大也市長に手渡した。浅野会長は「海外の人にもマリモの生態を知ってもらい、子供の英語教育にも役立ててくれれば」と話していた。今後絵本は市内の小中学校や図書館、阿寒湖畔エコミュージアムセンターなどに配布され、英語教育や訪日外国人への情報発信に活用する。

蝦名市長に目録を手渡す浅野会長（左）

8/21 歓楽街でも「マリモ」を感じて ヒアガーデン共催「マリモナイト」盛況

夏の釧路を象徴するイベント「釧路すえひろヒアガーデン」（釧路商工会議所主催）のコラボレーション企画、「マリモナイト」（マリモでくしろを盛り上げ隊協力）が8月21日に開催された。この日は開場とともに来場者が詰めかけるという盛況ぶり。盛り上げ隊を代表し浅野会長のあいさつのあと、蝦名市長の乾杯でスタート。ヒートボイスライブ、まりもまん早食い大会、豪華景品が当たるもちまき大会など多くの企画が会場を盛り上げ、会場は多くの来場客であふれた。「さすがヒアガーデン」と思わせる心地よい風が通るなか、来場者らは思い思いのつまみと飲み物を手に短い釧路の夏の訪れを楽しんでいた。

前年に続き大盛況だった「マリモナイト」

9/29 「盛り上げ隊」まちなかの〝にぎわい〟にも一役

釧路市役所防災庁舎前広場で、7月7日から毎週日曜日の朝に開かれている定期市「くしろ輝く日曜朝市」（同実行委主催）の当季最終日となった9月29日、同広場でフィナーレイベントが開かれ、多くの人でにぎわった。この日は、マリモで釧路を盛り上げ隊と連携し、トーカリップ体操や早食い競争、餅まき大会が企画された。開場となる朝6時30分から多くの来場者が訪れ、野菜や焼きそば、ザンギ、小物商品などの売れ行きも好調。市の最後を飾る景品付き餅まき大会時には300人を超える来場者が詰めかけた。出店していた男性店主は「こんなに多くのお客さんに来ていただいたのは初めて、また来年も一緒にやりたい」と話していた。盛り上げ隊の浅野会長は「朝から体操でからだを動かすことは健康上も有意義なもの。体と街の活性化のため、今後もこのような活動をしていきたい」と意気込みを語っていた。

会場いっぱいの来場客で今年の幕を閉じた日曜朝市

8/17 令和の幕開け 第61回 釧新花火大会 好天に恵まれ大盛況

足早に去りゆく短い釧路の夏の風物詩「第61回 釧新花火大会」（釧路新聞社主催）が2019年8月17日に行われた。当初予定していた16日に台風が通過したことから1日遅れての開催となったこの日は、朝から抜けるような青空に恵まれ絶好の花火日和となった。打ち上げに先立ち行われた地元のフォークデュオ「ヒートボイス」によるライブには多くの観客が詰めかけ熱い声援を送った。午後7時の定刻通り開始した花火は、道内最長となる1000㍍のナイヤガラに始まり、もはや恒例となった「マリモでくしろを盛り上げ隊」、地元医師で結成される「ぬさまい会」協賛のヒートボイスライブとコンピューターシューティングによる芸術的な花火で最高潮の盛り上がりを見せた。会場からは「つのプログラムが終わる度に「わぁーっ」という歓声とともに惜しみない拍手が送られた。大会関係者によると「2週間ほどぐずついた天気で心配だったが、こんなに天気に恵まれることはまれ。過去十数年を見ても最高の花火だった」と話していた。

10/21 釧路のジビエ、食べて応援。 クシロディア&ビアパーティー2019に参加

釧路産ジビエ「エゾシカ肉」を味わい、知ってもらおうと開催された「KUSHIRO DEER&BEER PARTY 2019」（同実行委員会主催）が10月21日釧路市観光国際交流センターで開催され、多くの来場者で賑わった。イベントは近年注目が集まる「ジビエ」（狩猟で得た食肉）としてのエゾシカ肉の利活用促進を目的としたもの。会場内では日頃エゾシカ肉料理を提供する飲食店がハンバーグや、カレー、シカ肉ミートソースを使った肉まん「まりもまん」などを提供。会の趣旨に賛同する「マリモでくしろを盛り上げ隊」「ヒートボイス」によるトーカリップ体操のほかご当地ドリンク「マリモハイボール」も会の雰囲気作りに一役買った。

ヒートボイス・蝦名市長らとともにトーカリップ体操で一体となった会場

この体操知ってる！

トーカリップ体操とその魅力

この言葉は昨年の釧新花火大会開始前、釧路のフォークデュオ「ヒートボイス」のライブ中に私の背後から聞こえてきた言葉だ。私は、この曲が彼らの歌う「トーカリップ」という曲であることはもちろん知っていたが、その背後の声の主はおそらく小学校低学年か、もっと幼い子のようだった。母親らしき女性に「行っておいで」と促されたその子は恥ずかしそうにその場で少しの間もじもじしていたがステージのスピーカーから「踊ってくれたらおかしあげるよ～」との〝甘い〟言葉にニコッと笑顔を浮かべステージのほうへ走って行った。

ヒートボイスの二人は実に上手に観客をのせている。あっという間にステージ前には人だかりができた。ざっと数えても100人以上。ステージまで来ないまでも、その曲に合わせて踊っている人が土手の上にまで見て取れた。踊っているのは子供だけではなかった。若い女性、高齢の人、私と同じぐらいのおじさんまで踊っているではないか！正直、すごい認知度だと感心した。ふとポケットからスマホを取り出しその雰囲気を撮影してみた。画面越しに見ているとあることに気付いた。

ステージ前の〝お手本〟を見ている人、見ていない人、見たり、見なかったりの人。おそらく踊ったことのないであろう人でも、2番の歌詞になるところには知ってそうな人くらいには踊れている。そして踊っている人はみな笑顔だった。

「親しみやすいっていうのはこういうことなんだな」と感心してしまった。難しさの無い振付、でもそのシンプルさに楽しい要素があることが重要だと感じた。シンプルだからちょっとぐらい〝お手本〟と違ったって何ら問題ない。各自が思い思いにからだを動かしている。そういうふところの深さがいいなと感じた。

踊りが終わり、「みんなありがとー」という声が聞こえてきた。あの子が約束のお菓子を腕に抱きしめて走って行ったのが見えた。

【寄稿：釧新花火大会関係者】

「マリモの阿寒湖を世界遺産へ!!」
マリモでくしろを盛り上げ隊
会長 浅野一弘
副会長 杉元重治
事務局長 浅野目充